

自ら発見、積極的に行動

避難所開設体験学習会



HUGを行う生徒たち



お弁当の支給を行う
役場職員班



避難所生活について話す荒町さん

段ボールで間仕切りを作成！



町内の中学2年生を対象とした避難所開設体験学習会（同実行委員会主催）が6月4日、虻田中学校体育館で行われ、虻田・洞爺各中学校から48人の生徒が参加しました。

有珠山噴火などの自然災害時に自分の頭で考え、行動する力を養うことを目的に、毎年行われていて、今回で6回目の実施となります。

はじめに、洞爺湖有珠火山マイスターの荒町美紀さんが、2000年噴火の避難所生活について話しました。荒町さんは「避難所で生活するときには、思いやりの気持ち、助け合いの気持ちを大切にしたい」と生徒たちに訴えました。

講話の後、避難者役5班と役場職員役1班に分かれ、避

難者役班は段ボールで間仕切りやベッドなどを作成。役場職員班はお弁当を食物アレルギーに配慮して公平に支給し、生徒たちが自ら考え、行動していました。

午後からは避難所運営ゲーム「HUG（ハグ）」を使い、避難所の開設から運営までを体験。「ストープをどこに設置するか」「救援物資をどこに置くべきか」などの次々に生まれる課題への対応を話し合いながら解決していきま

した。役場職員班の洞爺中岡本愛さんは「お弁当を公平に配ることやごみの分別などを気をつけた。HUGを体験するのは初めてで、さまざまな条件の中、訪れてきた人をどこに配置するかが難しかった」と振り返りました。